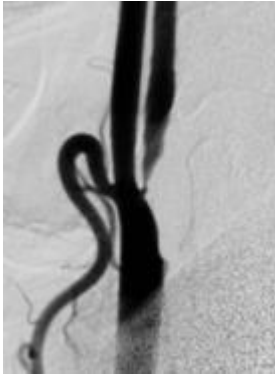


## 頸部頸動脈狭窄症に対するステント術

頸動脈は、動脈硬化性変化が起きやすい部位です。頸動脈の狭窄病変に対する治療は、頸動脈内膜剥離術という外科手術が施行されています。外科的手術に変わって、カテーテルを用いた血管内手術が行われるようになってきました。これはカテーテルを足の付け根の動脈から挿入し、この中を通して風船（バルーン）を誘導して、病変部を拡張させます。さらに金属製メッシュのステントを留置し、血管の拡張を完成させます。術中末梢へ設置したフィルターにて拡張時飛散する血塊を防止します。



高度の内頸動脈狭窄



拡張手術後の内頸動脈と留置したステント



治療実績

2014年のコイル塞栓術は26例（破裂12例、未破裂14例）でした。

2014年の頸動脈ステント術は20例でした。